

## 第68回日本シルク学会研究発表会プログラム

11月19日(金)

	講演番号	所属	発表者	演 題	
	9:55	開会・会長挨拶			
一般講演	野蚕・クモ糸 (座長: 吉岡太陽)				
	10:00	01	信大院繊維	佐々木うみ	クモ糸の構造と力学強度へ及ぼす射出速度と体重の影響評価
	10:15	02	信大院繊維	日高康輔	天然スパイダーシルク材料の形態依存的な細胞接着特性
	10:30	03	農研機構	亀田恒徳	High-speed reeling of silk thread directly from the spinneret of the African wild silkmoth Gonometa post
	10:45	04	信大繊維	岩田俊介	野蚕シルク溶液の湿式紡糸
	製糸・織物・紡糸 (座長: 清水重人)				
	11:00	05	信大繊維	中山堅登	カイコシルクH鎖を用いた溶液紡糸による再生絹糸の高タフネス化
	11:15	06	信大院繊維	宮下珠奈	芯鞘構造を持つシルクフィブロイン ナノファイバーの作製の試み
	11:30	07	蚕糸研	栗岡聡	FFA法による製糸原料繭における繭糸分離細繊維の発生予測
	11:45	08	蚕糸博	林久美子	諏訪製糸業のあけぼのとしての「諏訪小倉織」

12:00

昼 食

一般講演	蚕育種 (座長: 池田真琴)				
	13:00	09	農研機構	伊賀正年	高強度系統カイコの雑種第一代における繭糸質および生糸収率
	13:15	10	群馬蚕技セ	下田みさと	初秋蚕期の繭質および初秋蚕期用蚕品種「なつこ」の実用化
	13:30	11	蚕糸研	竹村洋子	「プラチナボーイ」をベースとする新しい雄蚕系統の作出と雌蚕飼育「おりひめ」の性状
	13:45	12	蚕糸研	常山泉	緑繭を生産する実用蚕品種の開発とシルクビジネスへの展開

14:00

総 会

14:25 日本シルク学会賞 受賞講演 「わが国の蚕糸技術に関する調査研究ならびにその継承と普及活動」  
岡谷蚕糸博物館  
林 久美子 会員

14:45 特別講演 「新生なった蚕糸科学技術研究所の役割」  
(一財)大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所  
所長 新保 博 会員

15:10 休憩

	講演番号	所属	発表者	演題	
一般講演	<b>遺伝子組換え（座長：神戸裕介）</b>				
	15:15	13	信大繊維	馬淵春奈	P7ペプチド導入シルクフィブロインスポンジの細胞培養評価
	15:30	14	農研機構	Tian Yaxi	Breeding of a Novel Transgenic Line for Mass Production of Azido-Incorporated “Clickable” Silk
	15:45	15	群馬蚕技セ	池田真琴	高染色性絹糸生産カイコの実用化における課題について
	16:00	16	群馬蚕技セ	滝沢俊介	高機能シルクを生産するカイコの飼育試験について
	<b>桑・人工飼料（座長：横山岳）</b>				
	16:15	17	群織工試	山本真揮	新たな人工飼料の可能性と得られる絹糸の特性
	16:30	18	群馬蚕技セ	毛利弘	稚蚕人工飼料「くわのはな」による全齢人工飼料育について
	16:45	19	農研機構	飯塚哲也	LED照明の人工飼料への影響について
	17:00	20	農研機構	小山朗夫	ケニア共和国における保存クワ品種の栽培特性
	<b>シルク加工・構造（座長：寺本英敏）</b>				
	17:15	21	群織工試	信澤和行	機能性物質のセリシン内包化による繊維加工剤の開発
	17:30	22	国循	神戸裕介	FRET-MMPセンサーによる絹フィブロインゲルの初期生分解の可視化
	17:45	23	農研機構	吉岡太陽	エリサン絹糸腺内部で生じる自己組織化フィブリル前駆構造形成の観測
	18:00	24	信大繊維	橋本朋子	シルクフィブロイン二次構造変化に与えるアルコール水溶液特性の影響
	<b>シルク文化・歴史（座長：玉田靖）</b>				
	18:15	25	東京農工大	齊藤有里加	蚕糸教材に見る明治中期の簡易蚕室「藁囲蚕室」
	18:30	25	岡谷市役所	鮎澤諭志	近代日本における煮繭・繰糸温度および繰糸速度の変遷と特性に関する技術的研究
	18:45	閉会			

11月20日（土） 9:00～17:00

岡谷蚕糸博物館 自由見学（学会参加の名札持参者は無料）

**【口頭発表要項】**

- ・発表者の持ち時間は15分です。発表時間12分、質疑応答時間2分、交代時間1分を目処にお願いいたします。
- ・会場にパソコンの切り替え器がありますので、迅速な交代のために次発表者はあらかじめ繋いでおいて下さい。
- ・トラブルを避けるために、研究発表会の開始前、あるいは休憩時間にあらかじめ試写をお願いします。